

# 進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2012. 11. 19

3, 4年生用 No.60

## チャレンジすべき時にチャレンジできるかが人生の分かれ目



世の中には人のうらやむような成功をしている人がいます。その人は一般の人とどう違うのでしょうか。「才能」や「運」に恵まれたということもあるでしょうが、それにプラスして「チャレンジすべき時にチャレンジできたか否か」にも大きく関わっている様に感じます。

以前岡工で担任をした際、長野市の中学からわざわざ岡工のバレー部に入った生徒がいました。その生徒は3年時にバレー部のレギュラーとして全国制覇の3冠を果たしました。卒業後早稲田大学へ推薦で進学しました。もし彼が中学卒業時に岡工への進学を決意しなければ、3冠も早稲田も無かったでしょう。

人間は誰しも一度ならず人生の中で何かにチャレンジしようか迷うことがあります。多くの人はそこでその時のリスクについて尻込みをしまいがちです。しかしそこであえてチャレンジすることにより新たな人生を開く可能性が出てきます。**無謀な決断や行動には慎重でなくてはなりません**が、時には**多少のリスクを恐れず、自分の可能性にチャレンジすることも必要**です。

**守りに入るとそれ以上の成長は望めません。**新しい世界に踏み出す勇気が必要です。人間にチャレンジ精神があるからこそ科学技術も発達するのです。チャレンジ精神が無くては新しい世界を知ることには出来ません。「**チャレンジして後悔するか、しないで後悔するか**」皆さんはどちらを選びますか。

## 若いエネルギーを有効に活用を



皆さんは高校卒業まであとわずかです。実質的には高校生活は2ヶ月余しか有りません。皆さんの人生はこれからです。多くの可能性を秘めています。しかし**若い時はまだ時間がいっぱいあるような気持ちになり一番活動的な時期を無為に過ごしてしまいがち**です。

私はまもなく定年を迎える時期になってきましたが、気持ちはまだ若いと思っても体力はもとより、記憶力、気力等は鈍るばかりです。今になり若い時にもっとやるべきことが沢山あったことを悔いていますが、年をとって分かって遅いのです。若い時はそれなりに精一杯生きたつもりでも、反省ばかりです。

そうした意味でもまだ人生これからの若い皆さんには、若さの特権を生かしもっと果敢に生きて欲しいものです。何かにチャレンジしようと思っても言い訳ばかりを自分の中に並べて、実行に移せないことが少なくありません。いざというときには思い切ったチャレンジ精神を鼓舞することも必要です。**自分の殻を守り、日常に浸っていることは楽ですが、どこかでその殻を破り外の世界に出ないとそれ以上の広がりはありません。**

日々漫然と生きるのではなく、新しい巣立ちを前にもう一度これからの自分の人生をどう生きようとしているのか自分に問い直し、自分の将来設計を少し考えてみましょう。

